

カービュー マーケットウォッチ (2011年3月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体では6カ月連続前年同月比がマイナス

11年2月順位	11年1月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(2)	↑	プリウス	トヨタ	19,110
2	(1)	↓	フィット	ホンダ	16,876
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	16,484
4	(10)	↑	セレナ	日産	9,646
5	(5)	→	フリード	ホンダ	7,032
6	(4)	↓	ラクティス	トヨタ	6,781
7	(6)	↓	カローラ	トヨタ	6,495
8	(8)	→	パッソ	トヨタ	5,909
9	(7)	↓	デミオ	マツダ	5,196
10	(11)	↑	ステップワゴン	ホンダ	5,151
11	(15)	↑	ヴォクシー	トヨタ	5,141
12	(13)	↑	マーチ	日産	4,677
13	(12)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	4,429
14	(16)	↑	ノア	トヨタ	4,184
15	(9)	↓	ソリオ	スズキ	3,981
16	(14)	↓	ノート	日産	3,930
17	(19)	↑	ウィッシュ	トヨタ	3,836
18	(21)	↑	エスティマ	トヨタ	3,711
19	(18)	↓	クラウン	トヨタ	3,594
20	(17)	↓	ジューク	日産	3,233

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体では6カ月連続前年同月比がマイナス！ 輸入車が2カ月連続で前年を上回るなど回復の兆しも

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した3月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は34万1034台で、前年同月比は86.2%と6カ月連続のマイナスとなった。下げ幅自体は5カ月連続の2ケタ台だが、前月より5.2ポイント改善し、昨年11月を底に3カ月連続で縮小している。特に軽乗用車が11万4343台、前年同月比91.3%と3カ月連続のひとケタ台のマイナスで、輸入車も「日産 マーチ」や「スズキ スプラッシュ」などを除いた海外メーカー製のみでも1万4031台、同108.3%と2カ月連続のプラスになるなど、回復の兆しも見え始めている。ただ18日現在、東北地方太平洋沖地震の影響で、東北方面からの部品調達が難航しており、国内メーカーの工場の多くが操業停止になるなど不安要素も多く、今後の動向が注目される。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車(新型日産 マーチ分含む)は21万2218台で、前年同月比82.6%。メーカーブランド合計では、今年1月に投入した「CT200h」が発売後1カ月で約7500台の受注を集め、2月単月で1660台と好調だったレクサスが3473台/前年同月比103.0%、昨年12月にモデルチェンジした「ソリオ」が月平均販売目標1000台を大幅に上回る3981台と売れているスズキが7486台/同137.3%とプラスになった以外、前年を下回り、特にトヨタは10万3990台ながら、前年同月比は76.1%と落ち込んでいる。月間ランキングでは「トヨタ プリウス」が「ホンダ フィット」を抜き返し、トップを奪還。「日産 セレナ」が本領発揮の9646台で前月10位から4位にジャンプアップを果たした。

軽自動車は、貨物車を含めた軽自動車全体でも14万8658台、前年同月比91.0%と堅調で、車名別でも「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」が1万6230台、前年同月比126.3%と好調をキープし、2カ月連続のトップだ。

輸入乗用車は日本メーカー製を含めた全体でも1万9140台、前年同月比141.8%。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が前年同月比95.2%とマイナスながら、3697台で2カ月連続のトップとなり、2位メルセデス・ベンツ2248台、3位BMW（ミニを除く）1986台、4位アウディ1542台、5位ミニ779台、6位ボルボ695台、7位プジョー478台、8位フィアット384台まで、前月と同じ順位となった。VWを除き、いずれも前年を上回り、特にアウディは前年同月比134.4%と好調で、3位BMWに累計で471台差に肉薄している。

■ココも気になる！その1

ハイブリッドカー市場でトヨタ vs ホンダが激化？

昨年の貨物車や軽自動車を含む全新車国内年間販売台数で、トヨタは前年比13.8%増の153万1722台でトップ、2位はホンダで同3.5%増の64万7289台、3位は日産で同7.7%増の64万5369台だった。日産は新車攻勢で2009年の4位からワンランクアップしたが、トヨタ

とホンダが先鞭をつけたハイブリッドカー人気には及ばなかった。

トヨタは 1997 年に世界初の量産ハイブリッドカーとして「プリウス」を発売。「エスティマ」、「ハリアー」、「SAI」などラインナップを拡充し、今年 2 月末までに世界累計販売約 303 万 8000 台を達成。このうちプリウスは 218 万 5500 台で、国内 92 万 1000 台、海外 126 万 4500 台だった。ホンダは初代「インサイト」を 1999 年に投入。その後、「シビックハイブリッド」、アコードハイブリッド(北米のみ)と車種を増やし、2009 年 1 月末に世界累計販売 30 万台を突破。09 年 2 月にはインサイトをモデルチェンジし、4 月にハイブリッドカー初の国内月間トップ(軽自動車を除く)を達成し、昨年「CR-Z」、「フィットハイブリッド」を発売するなど、ハイブリッドカー市場で独走状態だったトヨタを猛追して見せた。

そんなホンダの次の一手が 3 月 17 日発表予定だった「フィットシャトル」(東北地方太平洋沖地震の影響で発売を延期)だ。フィットより大きめのワゴンボディにハイブリッドシステムを搭載し、さらなるバリエーション強化を狙っている。もちろんトヨタも、5 月には 5 人乗り 2 列シートと 7 人乗り 3 列シートが選べるプリウスの派生モデルを投入予定で、さらに年末にはフィットハイブリッドをターゲットにした、コンパクトハイブリッドカーも控えている。ホンダには「フリード」のハイブリッドモデルの噂もあり、ここしばらくトヨタ vs ホンダのハイブリッドカーバトルから目が離せそうにない。

■ココも気になる！その 2

4 年連続で記録更新のアウディの勢いが止まらない

今年 1 月が 1396 台で前年同月比 178.7%、2 月も 1542 台で同 134.4%と、2 月としては過去最高を記録したアウディ。昨年、年間で 1 万 6854 台、前年比 104.2%と歴代最高の販売台数を達成し、4 年連続で前年を上回った勢いそのままの快進撃を続けている。

昨年は「A3 スポーツバック」1.4TFSI などエコカー減税対象車が人気だったのをはじめ、「A5 スポーツバック」といったニューモデルを 6 車種投入。こうした積極策が功を奏した形だ。世界市場でも売れ行き好調で、昨年は前年比 15.0%増の 109 万 2411 台となり、新記録を樹立。特に中国で同 43.4%増の 22 万 7938 台、アメリカで同 22.9%増の 10 万 1629 台と高い伸び率を記録した。中でも「Q5」、「Q7」といったプレミアム SUV が好評を博しているという。

今年は、日本では昨年 12 月に投入された最高級サルーン、「A8」がすでに 200 台以上の受注を集め、1 月にはプレミアムコンパクト、「A1」を発表し、初年度販売目標 4000 台達成に向け、好調なスタートを切っている。さらにテールゲートを備えたファストバックスタイルの「A7 スポーツバック」や、先日のデトロイトショーでお披露目された新型「A6」も今年中には日本に導入されるはずだ。

また世界市場にはアウディ初のコンパクトクロスオーバーとなる「Q3」を近々、投入予定で、まだまだニューモデルラッシュが続くような勢いだ。これで日本では年間 2 万台、世界市場では年間 120 万台の販売台数達成をもくろんでいるのだが、今のアウディなら決して無謀な目標

とはいえないだろう。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
